

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000309		
法人名	株式会社 トミタ		
事業所名	グループホーム なかよし倶楽部		
所在地	群馬県富岡市七日市676-4		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9部屋の小さなホームで家庭的に過ごして頂く事ができる。ホールは天窓もあり明るく暖かな雰囲気です生活できるようにしている、個室で眠る以外はホールでレクや体操などをして過ごし他の入所者と馴染みの関係を作る事ができる。ホールが見渡せる位置にキッチンがあり3食を手作りし、食事の提供をしている。美味しそうな匂いを感じて頂きながら食事を楽しんで頂けるよう工夫をしている。共有の空間で皆さんの表情や活動の様子を日々観察する事で体調変化に気づく事ができ、医療への早い対応ができるようになっている。家族・利用者の希望を時々確認し最期まで過ごしたい時には看取りの体制を取り支える事ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時に、本人・家族から生活歴などを伺い、利用者一人ひとりの特性を掴むと共に、事業所の生活でのあらゆる場面を通して、持病を含め健康状態など一人ひとりの状況を把握して、利用者が発する言葉や表情などから思いや意向などを把握し、個別の支援に努めている。そうしたなか、それぞれのかかりつけ医との関係を大切にしながら、看取りなどについて、本人や家族が選択肢として持てるよう支援を行っている。また、食事については、季節の野菜や入居者の意向も取り入れ、職員が作成し3食ホームで手作りしている。食事のたびに美味しそうな匂いや準備などで食欲を刺激し、楽しんで食べていただけるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に顔を合わせ意見交換を行っている その中で理念についても話し皆で共有できるようにしている	数年前に、家庭・家族をキーワードに理念の見直しを行い、その理念に沿って取り組んでいる。入居者一人ひとり個性があり、個性を大切に個別的に対応している。理念を取り上げ話し合っていないが、朝夕の申し送り時等にケア内容を共有し、理念が実践されていることを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班に加入し地域の行事などには参加できるようにしている。(地域の清掃) 回覧板で情報を共有しているが、コロナの影響で現在は距離を保っている	回覧板を通じ地域の情報を得て、地域の行事などに参加しており、お祭りなどでは毎年寄付を行っている。近所の方とは、日常的に話をするなどの触れ合いあり、火災時の協力体制もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談事などがあればアドバイスなどをさせて頂くようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っているが、コロナの影響で外部の方の参加は見合わせている	運営推進会議は、通常は家族、民生委員、区長、市の職員が参加して行っているが、コロナ禍で事業所内部での開催とし、市には、入居状況、行事報告などを書面で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡調整会議などが開催された時には参加できるようにしている 現在はコロナの影響で窓口に行く事は控えているが、必要な情報は届いたメール等で確認している	普段はメールでのやりとりが多いが、介護保険代理申請等の手続きで市に行くことも多く、コロナウイルス感染症対策の情報などを得て、対応している。市主催の連絡調整会議に参加し、市や事業所間との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や危険が及ぶ場所の施錠は行っている 身体拘束について行わない方針である 具体的な禁止事項については職員間で話し合っている	身体拘束はしない方針であり、転倒リスクの高い方には、見守りや防止策を講じながら対応している。玄関は施錠しているが、外出願望があるときは、散歩やドライブなど様子をみながら意向に沿った対応をしている。言葉の抑制については、日頃から注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については未然に防ぐようにしている 言葉でも虐待に当たる事もある事を伝え、防止に努めている コロナの影響で研修の参加は無いが今後機会があれば参加する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見について以前受けた研修を活かして職員教育を行っている 後見人が就いた方も入所しているので、連絡を取り合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類を説明し署名捺印を頂くようにしている 現在コロナの影響でホーム内立ち入りを断っているため、郵送し確認後捺印を頂く事もある 質問等あればその都度答え理解して頂くようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望などはいつでも受け付けている事を伝えている。 現在はコロナの影響もあり電話やメールで連絡を頂き処遇や運営への反映ができるようにしている	運営に関する意見はあまりないが、家族とショートメールでのやり取りを行い、必要に応じて電話をして、要望などを確認し、日常のケアに反映している。入居者の様子は月1回写真や手紙で知らせ、情報共有に努め、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の話を書く機会を設け、意見や提案を聴くようにしている 必要な事項は管理者から代表者に報告している	特別な会議はしていないが、朝夕の申し送りが入居者の特記事項について共有しており、その際に職員の意見をケア等に反映している。 管理者から法人代表者に毎日業務日報を行っており、コロナウイルスなど発生時の人員確保などの相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎日の業務報告を通して職員の報告も行っている。良い事は褒めるようにしている 代表者は職員の勤務状況などを把握し、給与の引き上げなどを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で研修の機会は少なくなっているが、希望があれば参加しスキルアップできるよう推奨している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や交流会がある時には参加できるようにしている。最近はコロナの影響で訪問や勉強会等の機会は減少している。Web研修への参加は検討しているがまだ参加していない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを立てる時に要望など伺って希望に沿った暮らし方ができるように努めている 暮らしの中で時々要望を確認できる機会をつくるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に不安や困っている事などを伺い支援の方法を共に考え提案している コロナで面会の機会が少ないため電話やメール・手紙などで状況を報告し話しやすい関係づくりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在一番困っている事を解消できるように支援方法を考え提案している 体調変化した時には医療サービスなども入れて対応できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での個々の生活を支えるだけでなく一緒に出来る事を探して支え合える関係を作れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは適時連絡を取り合い体調の変化なども共有している 毎月手紙と写真を入れ、暮らし・通院結果・表情などがわかるように送っている コロナで面会ができない分密に連絡を取るようになっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで外出の機会は少なくなっているが、かつて住んでいた場所周辺まで車で行き車窓からでも確認して頂くようにしている 馴染みの場所に関する話は日々行っている	コロナ禍で外出行事や面会ができていないため、日常の会話の中で馴染みの人や場所について話すほか、日々近所への散歩やドライブで入居者の自宅周囲への訪問など、可能な範囲での活動のなかで馴染みの関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢も性格も異なる利用者の様子を把握し良い関係が築けるよう支援している 利用者間でのトラブルが起こらないよう見守り、必要な時には席の移動なども行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも必要な時があれば連絡を取り合い関係を切らさないよう努めている 時々差し入れや使える備品などを届けて頂く事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞いた希望を皆で共有し望みを叶えられるよう支援している 思いは変化するので時々確認ができる機会を作っている	認知症といっても一人ひとり全く違うので、その方の様子を知り、日常の中で何気なく言ったことなどを実現できるように、話ができる方には、いろいろな場面を通して話をしている。訴えられない方には、触れてみたり表情を含めよく観察したりして、日頃の様子と過去を結び付けるなどし、思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より今までの暮らし方や嗜好などの情報を把握し暮らし方を考えて行くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	季節の行事や入浴以外は予定を決めていないため、それ以外の時間は自由に過ごせるようにしている レクの参加は個々に促して興味を持っている事を把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には記録や意見を元に作成している、家族からの希望は入所時に確認している コロナで集まる事を避けているため会議は行わず毎日の申し送りなどで情報収集して介護計画に反映している	ケアプランは、3ヶ月ごとに見直しをしている。日々の記録や特記事項、職員からの聴取をもとに判断し、モニタリングを行っている。状態が変化した際には、ケアプランを変更している。コロナ禍で面会が難しいので、家族の意向をメールや電話にて確認をすることで計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を中心に記録をしている、日常の様子は簡略して記録をしている 皆で共有すべき事項はその都度伝えている 介護支援専門員はそれらの事項を基にモニタリングしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズには細やかに対応できるようにしている 必要な支援が行えるように時々話し合う機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用し支えてきた資源を確認し把握、必要な時には活用できるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から見て頂いた医療は継続している 疾病がそれぞれ異なるため継続を切らさないようにしている コロナの蔓延中は代わりに受診し薬を処方して頂くなど支援している	これまでのかかりつけ医とのつながりを尊重し、大方の入居者がそのまま継続し受診している。協力医に途中から変更した方もいる。受診介助は、基本管理者が行っており、受診内容をメールなどで家族に報告している。歯科は、適宜協力医が往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は不在の為、管理者が受診に同行やし病状の確認を行っている 受診結果はノートに記入し職員全員が把握できるようにしている 家族にも状況報告を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時には生活歴や状況を報告し安心して療養できるようにしている 病院関係者とは連絡を取り合い相談ができる関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や病状変化した時に状況を把握、家族とも連絡を取り合い終末期の迎え方や希望を確認している ホームでの看取りを希望した場合には、医療関係者や家族と相談し方向を決め支援できるような体制を取っている	入居当初に、重度化時の指針をもとに説明している。状態の変化時は早めに家族や主治医に相談し、希望に応じた対応をしている。看取り支援は当たり前のことと捉え、それぞれのかかりつけ医との協力関係性を大事に、本人や家族の選択肢が持てる支援を行っている。多くの看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒や病状の悪化により緊急を要する時には、応急手当や救急搬送等適切に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い緊急時に避難できるように体制を整えている 緊急時には地域住民も応援依頼ができるようになってきているが、訓練は合同で行っていない	年1回、職員と入居者で、一連の消防訓練を行っている。避難ルートや通報手順があり、職員誰でも対応できるようにしている。日頃から火災が出ないよう点検にも気を付けている。また、隣近所の見守り協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても人生の先輩であると言う事を忘れず言葉の使い方にも気を付けるようにしている 一人一人が異なる人格を持っている事を尊重し失礼のない言葉で対応できるようにしている	特に排泄などでは、耳元で囁いたり、日々の動きの中で何気なく声をかけて、誘導したりするようにしている。職員の不適切な言葉かけやケアが行われた場合には、具体的に丁寧な言葉かけや相手に合わせることの大切さなどの指導を行い、入居者の尊厳を損なわない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で伺っていた希望に対して時間のある時に叶えられるようにしている 返事がしやすいように声掛けの言葉を選び自身で決められるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や季節の行事以外の予定は決めず希望に沿えるような支援を心がけている 外出レクや散歩など、参加の意思を確認してから出かけるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えを選んでいただくようにしている、自分で来たり脱いだりを繰り返す方もいるので時々洗濯を行い清潔が保てるようにして 季節に合わせた着衣を用意する時好みを確認するなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に禁忌や好き嫌いを確認している 毎日の食事作りはスタッフが交代で行っているができる作業は手伝っていただくようにしている 食器拭きやテーブル拭きなどは交替で手伝っていただいている	食事は3食手作りで職員が交代で行い、献立づくりも担当職員が行っている。季節の食材・料理、入居者のリクエストなどを取り入れ、バラエティーに富んだものとなっている。入居者には、皮むきや後片付けなどを手伝ってもらっている。食事毎に美味しそうな匂いや準備などで食欲を刺激し、楽しんで食べていただけるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢・性別により量は異なるためその都度柔軟に対応できるようにしている カロリー制限や塩分制限にも対応し疾病の悪化を防ぐようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている ブラシ・舌ブラシ・歯間ブラシを使う事により清潔を保てるよう支援している 定期的に歯科医の往診があり必要な方に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄ケアを行っている チェック表を記録する事により排泄のリズムを把握しパターンに合わせて誘導や介助を行っている	個別排泄表に記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、定時や適時による誘導や介助をすることで、失禁なども減らせている。また、トイレ利用の際に、利用の仕方での入居者との間にトラブルが生じないように注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は毎日チェックしている 個々の排便状況により適切な薬・運動・水分等を補っている 医師に相談して適時服薬調節を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を個々のペースで支援できるように日程を分けている 体調や気分に合わせて入れる時に入浴できるようにしている 夜間については夜勤1名の為事故防止の観点から行っていない	入浴は、週2回を基本として、月～金曜日に実施している。その日に入浴したくない方は別の日に誘うなどしている。入浴時はゆっくり話し、洗身など自分でできることは行ってもらっている。入浴剤を入れたり、肌乾燥が強い方はボディソープを選んだり、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠のために日中は活動して頂くようにしているが、状況に応じて午睡なども促している 危険の無いように見守れるホールで休んで頂くケースもある 各自の過ごし方には強制しないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病や内服薬については職員が理解できるように伝えファイルに入れ確認できるようにしている 医師・薬剤師と連携をしわかりやすく分包をしている、症状変化した時には速やかに主治医に相談し見直しを行い皆で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かせるように「調理・片付け・掃除・縫い物」等の作業を行う時間を作っている 各自の好みや残存能力に合わせて柔軟に対応できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間のある時には外出支援を行っている、自分の住んでいた周辺や懐かしい場所など車窓からでも確認して頂くようにしている 現在はコロナ感染症の為外部の人との外出は控えている	その方の入浴日以外での外出計画を作成し、支援している。近所への散歩を行い、車椅子の方も広い場所で、歩行していただくこともある。ドライブで車窓から景色を見ていただくなど、希望を取り入れながら可能な範囲で外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症特有の物盗られでダブルが心配な為ホーム内での現金は所持しないようにしている 必要な時には買い物代行をしている 外出などができる時には自分で代金を支払って頂くが現在はコロナで外出を控えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りには対応できるが家族との関係で配慮が必要な場合がある 家族が無いケースもあるため、話題や会話時には配慮が必要となっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は物を置かないようにして転倒防止対策を行っている 各所に緑や作品を配置し暖かな雰囲気を作るようにしている	ホールは明るく、キッチンから美味しそうな香りがしてくる。食堂のテーブルには、感染対策でパーテーションを設置している。レクリエーションで行ったぬり絵やチューリップの折り紙などが壁に飾られ、季節に応じて模様替えが行われ、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席とは別に窓辺にソファを置き自由にくつろげる場所になっている、冬は畳のスペースにこたつを置き自由に使えるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に好みの物を持ち込むようお願いしている、衣服など自分で整理できるようにタンスを配置し必要な物が取り出せるようにしている 時々職員が介入し整理などの支援をしている	入居時に、好みのものを持ち込めるよう話をしており、家族写真やぬり絵、カレンダーを掲示したり、伴侶の遺影を飾る等、馴染みの家具や思い出の品が持ち込まれている。 個々に空調は職員が調整し、快適な環境で過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や個室などが誰でもわかるように文字や図で表し各所に貼っている 剥がしてしまう人も居るのでその都度張替え困らないよう工夫している		